

民話と伝承の里じっくりコース



庚申塔

60日ごとに巡ってくる庚申（かのえさる）の日の夜、人の体内にいる虫が抜け出し、天帝に悪事を告げる。それを防ぐため、男達は庚申講（こうしんこう）に集い、酒を飲んで寝ずに見張った。その証しが庚申塔だ。石塔は市内随所にあり、多くは道しるべを兼ねた。何基かの庚申塔を後から集めた所が多い。当時から100基並べた「百庚申塚」も武西（むさい）、浦部、小林などにあり、武西の百庚申塚は、江戸末期（1860年代）の面影を残している。



武西の百庚申塚

民話「そうふけっぱらのきつね」の里を歩く



タチツボスミレ

D-2



距離：約 6km

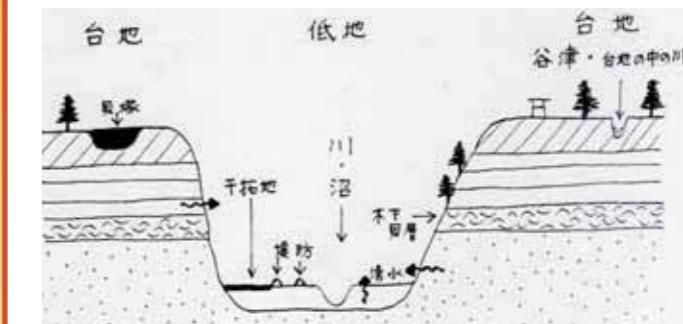
- 印西牧の原駅 → 草深公園 → ふれあい文化館 → 西の原公園 → そうふけふれあいの里
- 草深の森 → 丸山観音堂 → 稲荷神社（草深）→ 掩体壕 → 東の原公園 → 印西牧の原駅

草深・東の原地区



谷津のなりたち

川が台地を浸食し、低地や谷津（やつ）（谷戸（やと））ができる。台地と低地の境界は崖や坂道で、高度差は大きても20m位。下の図は、縦方向を拡大・強調してある。



ハノノキ林の谷津と集落を歩く

N
200m